

時系列データを利用した気温予測

総合情報学科 知能情報システム研究室
永井ゼミ J18403 真野 竜聖

研究動機

- 地球温暖化やそれに伴う異常気象等により年間の平均気温の上昇がみられる
- 気温の上昇に伴って高齢者をはじめとする熱中症患者も増えてきている

目的

- 気温の変化を予測し熱中症などの症状の予防を促す

システムの流れ

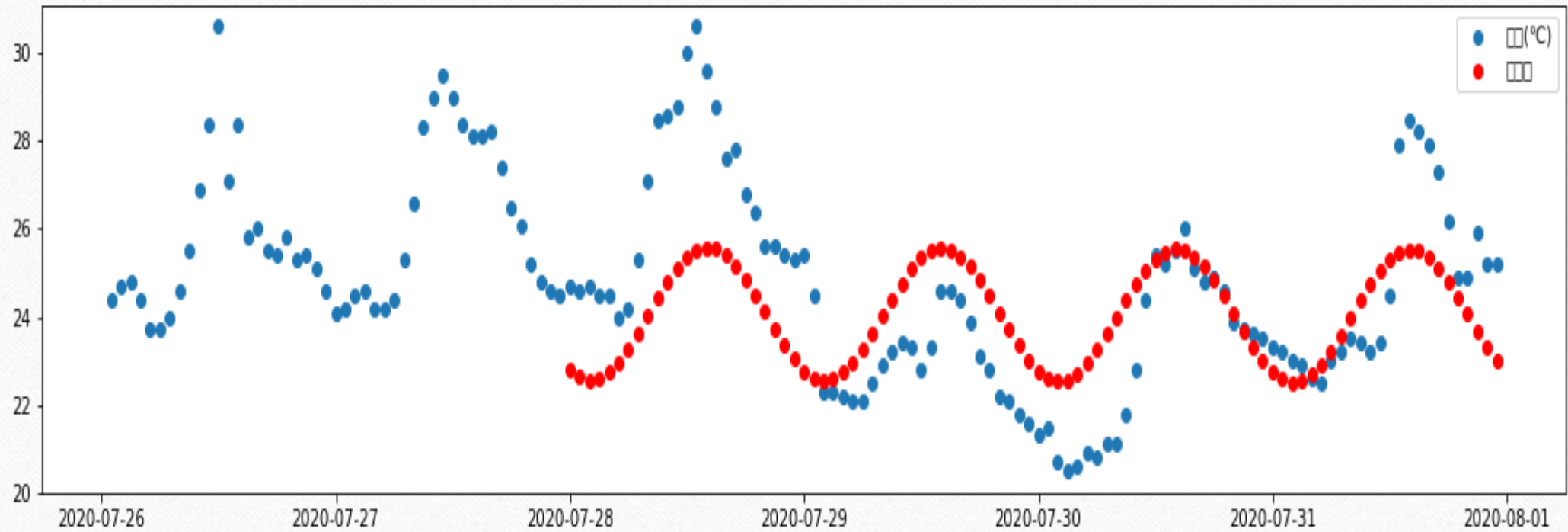
- 気象庁のサイトから過去の気温データを取得
- 取得した気象データから線形モデルを作成
- 作成したモデルを元に気温の予測値を計算

-
- 気温が24℃を超えると熱中症に注意が必要となってくると言われている



- 予測値が24℃を超える場合には注意を促す

例： 2020年7月・東京の気温データ(青)と予測値(赤)



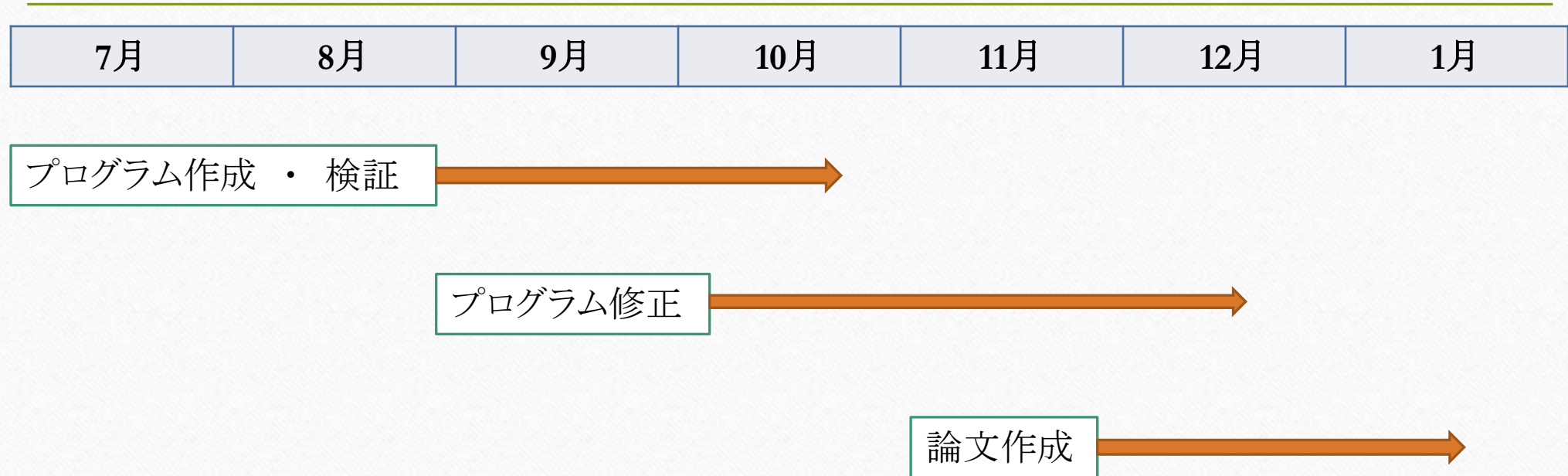
開発詳細

○開発言語:Python

○使用データ

気象データ(気象庁のWebサイトより)

研究計画



参考文献

- 気象庁 過去の気象データ検索

<https://www.data.jma.go.jp/obd/stats/etrn/index.php>

- 線形モデルで時系列データを予測してみる

<https://potesara-tips.com/linear-time-series/>

- WBGT(暑さ指数)および気温に注意

<https://www.otsuka.co.jp/health-and-illness/heat-disorders/wbgt/>